

Listen

兵庫教育大学附属図書館広報誌

VOL.9

Apr 2015

出前貸出、始めました
♪

Index

- P2 特集 **ボクブックプロジェクト**
- P4 LAP：ラーニング・アクティベーション・プロジェクト
- P6 Mendeley の衝撃
- P7 コラム：コピペの品格
- P8 図書館にない資料をゲットしよう！
- P10 教材文化資料館 News
- P11 マンガ：図書館仙人の業務日誌



特集

ボクブックプロジェクト



学生・教職員の皆様にご協力いただきながら図書館蔵書の活性化をめざすボクブック・プロジェクト。

「デリバリー」「セレクト」「ムービー」「シェルフ」。

どれもスタートから1年と日は浅いけれど、これから少しずつ活動の幅を広げていきたい。

そこで、このプロジェクトに参加してくれる人を大募集！

授業や研究会で出前貸出をしてほしい、図書館の選書に関わってみたい、ムービーや本の展示に興味がある、そんな方は、ぜひPAO常駐のこのスタッフにお気軽にお尋ねください。

Delivery

出前貸出、はじめました♪

「かわいい蔵書には旅をさせよ」との掛け声で始まった教室出前貸出。授業のテーマとリンクする本を授業者とともに選び、教室に展示して現地貸出までするという企画。「共通講義棟から図書館は目と鼻の先。でも本を読まない学生にとって心理的な距離は大きい」と語るのは、附属図書館ラーニングcommons PAOサポートスタッフの丸毛幸太郎。「本が教室にあれば否が応でも目につき、授業という「文脈」があれば読書への興味が生まれるかもしれない」。かくして生まれたこの企画。昨年7月のスタートから現在まで、計4回3つの授業にお邪魔し、試行的に展示・貸出を行った。とりわけ反応が大きかったのは、森田啓之准教授の『初等体育II』だ。レポートの

題材を、出前した本のなかから選ぶよう課題が出されたため、授業後に学生が殺到。貸出の列をつくってしまったほど。「最近の学生はレポート課題はまずネットで調べるとするのが一番で、なかなか図書館に出向きません。こんな風に図書館員と私が打ち合わせをして、関連図書を教室に持ってきてもらえれば、学生は今まで以上に本を身近に感じられるようになると思います」と森田准教授は言う。活動はまだ緒についたばかり。「今後は教室への出前機会を増やすとともに、教室だけでなく食堂などのコミュニティスペースにも出前の範囲を広げていきたい」。自慢の岡持ちを片手に、そんな青写真を丸毛は描く。



PAOサポートスタッフ 丸毛幸太郎



左：森田啓之准教授
中：本を選ぶ学生
右：貸出風景

Select

Facebook選書アプリ

オンライン書店 Amazon.co.jp で見つけた本を Facebook にシェアするだけで、図書館にその情報を伝えることができる便利な選書アプリがあるのをご存知だろうか。Facebook アカウントを使うのでユーザー登録不要。選書作業もこれまでのように書名やISBNなどを書きとめる必要は一切なし。

シェアされた情報は自動的に図書館のサーバに送られ、図書館スタッフによる選定を待つ。結果は全学生・教職員対象の月刊メールマガジン「Library News」で毎月報告される。さっそく選書アプリを使って、蔵書づくりに参加しよう。

※ 図書館HP→フェイスブック選書アプリ



Movie

本のコマercial

蔵書検索をする。目当ての本の詳細画面。書籍情報に紛れて、なぜか YouTube の窓が。再生ボタンをクリックしてみる。あっ、隣りのコースのあのんだ。この本を読んだのか、あの人も。ー そんな本との出会い方もありかもしれない。ちょっと気になる他人

の読書。それを垣間見させる企画が、ボクブック・ムービーだ。学部生や大学院生、教員や職員、学長までもがカメラの前に登場し、制限時間約1分でオススメ本を紹介する。在学中の思い出に、あなたも1冊、いかがですか。

※ 図書館HP→ボクブック movie



仲宗根千佳さん (大学院専門職学位課程 小学校教員養成特別コース)

Shelf

セルフなシェルフ

図書館スタッフや教員、学生ボランティアらがプロデュースするオススメ本の企画展示。図書館エントランスやPAO壁面書架などの空きスペースを使い、期間限定のコーナーを設置。もちろん貸出もできる。これまでに「心がほっこりあたたまる本」(学生ボランティア)、「運読のススメ」(図書館スタッフ)など各人・グループが自由なテーマと発想でゲリラ的に開催。めざしているのは、並べた人の顔が見える個人書齋のような書架づくり、いわばSelfなShelfだ。



企画展示「運読のススメ」の一面

LAP ラーニング・アクティベーション・プロジェクト

Learning Activation Project (通称：LAP) とは、図書館を中心とした学びの活性化をめざすプロジェクト。有志の学生が主体となり、図書館と協同で、学生の好奇心や学びたいという意欲をかきたてる知的活動を企画・運営している。メンバー共通のキーワードは「対話」だ。



「対話しよう、図書館で。」

ラーニングcommons PAO サポートスタッフの掛け声のもと、PAO を舞台に平成 25 年度より実験的にスタートした対話型の学びの場づくり。平成 26 年度には、この取り組みのコンセプトを継承するかたちで、図書館から学生主体のプロジェクトに移行。LAP が誕生した。学生ボランティアを募り、学生・図書館の協同で学

びの活性化に向けた活動を展開している。

第 1 弾の「学びってなんだろう」を皮切りに、「時間」「家族」「話す・聴く」「恋愛」など様々なテーマでワールドカフェ形式による対話の場を設け、毎回 10 ～ 20 名程度の学生が参加する。普段はなかなか関わる機会のない異学年・異分野の学生が集い楽しく学び合える、オープンで刺激的な場づくりをめざしている。



学生による企画

学部・大学院の学生によって構成された LAP メンバー。

お昼休みや空いた時間を利用して、企画（ワークショップ）の準備を進める。企画のコンセプトづくりでは、「どんな学びの機会をつくれるかな？」と、様々なアイデアを出しあいながら検討を重ね、徐々に企画の中心となるテーマ（問い）を決めていく。テーマが決まれば、あとは具体的なプログラムづくりや広報活動、当日に向けた準備物作成に奔走。一人ひとりが自分の持ち味を生かしつつ協力しあうことで、学生の学生による学生のための企画が生まれる。



学生が主体的に創り上げるので、
「やりたい」をカタチにできて、
とっても楽しいです！

運営者の声



LAP メンバー

田村 優弥 さん

学校教育学部
総合学習系コース

刺激的な学び体験

そして迎える、ワークショップ当日。

参加者たちは「対話」を通して、僕の気づき・私の学びをそれぞれ発見していく。「対話」は「雑談」とは違い、テーマがひとつに絞られているので、初対面の人同士でも話を深めていくことができる。また「議論」とは違い、ゆったりとあたたかな雰囲気の中で話し合いが進められるので、“serious fun (真剣かつ面白い)” という状態になり、快適でありながら刺激的な時間が流れる。学部・大学院生、現職教員、社会人経験者など、様々な人同士が対話することで、一人ひとりの経験や知識、考え方や価値観が、出会い、交わり、ぶつかり合いながら、多様な学びが生まれていく。

ワークショップのルールは、
相手も自分も場も、大切にすること。
それが魅力です。

参加者の声

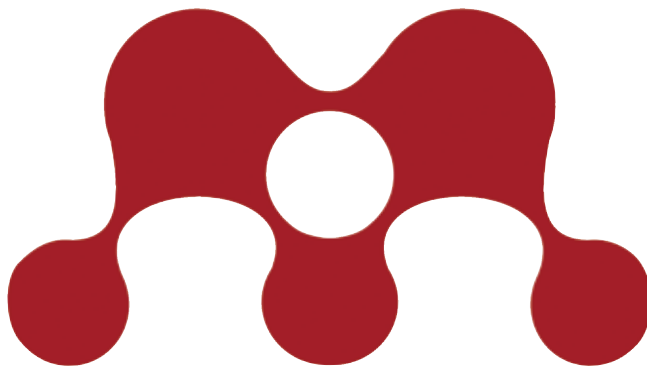


ワークショップ参加者

大 學 智 子 さん

大学院専門職学位課程
生徒指導実践開発コース

MENDELEY の 衝 撃



MENDELEY【メンデレー】とは、論文などの文献情報あるいは文献ファイルそのものを管理するためのソフトウェアである。デジタル化とウェブの発展により、学術文献は昔前とは比べものにならないほど探しやすく、かつ集めやすくなっている。こうなると、次は大量に集めてくる文献をいかに効率的に管理するかが問題となる。これを解決してくれるのが文献管理ソフトだ。

数ある製品のなかで、なぜいまMENDELEYなのか。その人気の理由は、何よりもまず**無料であること**、そしてにもかかわらず、**高額の文献管理ソフトに勝るとも劣らない多彩な機能を備えていること**だろう。Ciniiなどの文献探索サイトから検索結果をダイレクトにMENDELEYに送ったり、Wordで参考文献を自動作成したりといった基本機能に加え、MENDELEYには従来の文献管理ソフトが想定していなかった多くのありがたい機能が実装されている。多機能⇨初心者に不親切というイメージがあるが、シンプルで直観的なインターフェイ

ス・デザインがこの問題をクリアしていることも、魅力のひとつ。針の種類が多すぎて今何時なのかわからない多機能な腕時計のように、基本機能を見失うような危険はまずない。表示言語が英語であるにもかかわらず、初心者でも安心して使うことができるはずだ。

「参考文献リストの作成、閲覧がとても簡単、またプロジェクト別の文献整理もできるので重宝している」と語るのは、MENDELEY歴4年の吉田達弘教授。このサービステ出合い、自身の研究スタイルが一変したらしい。恩恵を受けるのは、研究者だけではない。

「MENDELEYのおかげで、修論や卒論作成の締め切り直前で救われた学生は数知れません」と吉田教授。聞くは一時の恥、知らぬは一生の恥。文献収集・管理でお困りの方、苦手な方、まだ経験のない方は、**今春図書館で開催予定のMENDELEY講習会**にぜひご参加ください。

(開催情報は図書館ホームページやフェイスブックページ等でお知らせします。)

コピペの品格

附属図書館 永井一樹

2歳の娘が突然、箸を使い始めたのです。指を差し込む輪っかのついたトレーニング用の箸ではありますが。ついこの間まで、フォークとスプーンしか使えなかったのに。くし型切りのトマトを突き刺し損ねてはヒステリーを起こしていたのに。いったいこの変貌ぶりは何なのか。2歳6ヶ月現在、納豆をつまみ、粘った糸を切断するための回転の所作まで板についているのです。心なしか急に娘が大人びたように感じるの、親の欲目でしょうか。「箸は、決して食べものを暴行しない」と、フランスの哲学者ロラン・バルトは書いています。西洋人の、槍（フォーク）と刀（ナイフ）で武装した狩猟の所作に比べ、箸をあやつる動作のなかには「人が赤ん坊の身体を動かすときのような、配慮のゆきわたった抑制、母性的ななにか」があるのだと。¹⁾ してみると、すでに私は娘に母性的ななにかを感じ取ってしまったということでしょうか。

※※※

最近、ネット上の他人の文章をコピペ（コピー&ペースト）してレポートなどを急ぎしらする学生が増えているそうです。コピペを自動検出する、ウソ発見器のようなソフトウェアも多く出回っており、教育機関への普及がすすんでいることから、問題の深刻さがうかがえます。

コピペは、紙のコピーをはさみで切って糊で貼りつける「ゼロックス時代」のそれに比べれば格段に安くつくし、情報化とウェブ検索技術の向上により、自分に都合の良い文章など、あっという間に見つけだすことができます。こんな便利な文明の利器を使わない手はないではないか、というわけでしょう。

しかし、そんなコピペにいそむ人々を批判する側も昨今はうっかりしてはいられないようです。これだけ世に情報が溢れると、自分の書いた文章に似た前例など、ネット上に

いくらでも転がっているからです。自分は他人の文章をコピペしたつもりはない。しかしそっくりな言い回しがネット上に存在する。そしてタイムスタンプは自分の方が新しい。どうして盗んでいないなどいえるのか、と、あらぬ嫌疑をかけられないとも限りません。あるいは、実際にコピペしているのに、そのことに本人が気づいていないということもありえるのではないのでしょうか。自分で考えて書いたつもりが、頭の奥に沈んでいるいつかの他人の文章をそのままなぞっているだけだったというようなことが。

私事で恐縮ですが、何か文章を書いているとき、私は突然既視感というか既読感のようなものにとらわれることがよくあります。あるいは、自分の意見を書いたつもりが、誰かにそれを書かされたかのような錯覚を覚えることも少なくありません。いわく言い難い体験ですが、こんなときはもしかすると、コピペをしでかしているサインなのかもしれません。

ちなみに上掲のロラン・バルトは、こういった既読感すなわち「以前の慣用の記憶」²⁾ から書き手に定型的なことばを選ばせる作用のことをエクリチュールと呼んでいます。書くこと（フランス語でこれをエクリチュールと呼ぶらしい）は、多かれ少なかれコピペなのだということでしょうか。

※※※

と、そんな屁理屈はさておき、コピペには合法的にそれを行う方法があります。すなわち、「引用」という行為です。著作権法では、「公正な慣行」に従い「正当な範囲内」であれば、公表された著作物を自分の作品に無断転載（コピペ）できることになっています。ここでいわれる「公正な慣行」とは、引用箇所を括弧で囲んだり出典を明示したり、引用とそうでない部分の主従関係に留意するといったテクニカルなこと他に、そもそもその引用

に必然性があることが求められます。

これについて、私にはちょっと苦い経験があります。20年ほど前になりますが、大学生のとき授業の課題レポートでマルクスの『資本論』を引用したことがありました。確か経済学とか哲学の授業ではなかったはずなのに。そして、マルクスの著作を私は一度も読んだことがなかったのに。たぶんマルクスの解説本が何かから適当に孫引きしたに違いありません。私としては、引用の体裁も整え満を持して提出したつもりでしたが、先生からは「なぜマルクスが登場するのか意味不明」と冷やかにつき返されてしまいました。

私がこの赤面体験を思い出したのは、ある大学でライティング指導をしている教員から、「原稿用紙2枚程度のレポートなのに、学生はとかく壮大なテーマを扱おうとする。書く以前にテーマ選びから指導しなければならぬ」といった悩みを聞いたときです。

若いときは、どうしてもフォークとナイフを使って高カロリーなものを食べてしまいがちです。消化不良を起こすことなど気にせずに。

箸の特徴のひとつは、持ち手の腕力にあったサイズのものしか運ばせないことです。日本料理が西洋人の目には「小鳥の餌」³⁾ のように小さくて上品に見えるのは、きっと箸に負うところが大きいでしょう。

引用の所作もまた、抑制の効いた上品な指さばきを心がけたいものですが、こういう小欄で「必然性」もままならぬまま、ロラン・バルトというビックネームを引いてくるあたり、虎の威を借る私の安い術学趣味は学生時代からちっとも治っていないということでしょうか。

1) ロラン・バルト (1996年) 『表徴の帝国』 (宗左近訳) 筑摩書房, pp.33-34.

2) ロラン・バルト (1999年) 『エクリチュールの零度』 (森本和夫、林好雄訳) 筑摩書房, p.29.

3) ロラン・バルト (1996年), 前掲書, p.34.

附属図書館にない資料をゲットしよう。

附属図書館の蔵書検索でヒットしなかった場合、あなたは どうしますか。
そこで踵を返すのか、はたまた一歩を踏み出すのか。
あなたの文献収集の可能性は、ここを境に大きく変わります。
一歩踏み出す方法をご紹介します。



複写



借用



訪問



購入

他の図書館から文献のコピーを取り寄せられます。本の一部分（例えば特定の章）や雑誌掲載論文など、複写する部分が特定されている場合に使います。

他の図書館から本を借りられます。参照したい部分が特定されていない、本1冊丸ごとが参考文献として挙がっていたといった場合に使います。

他の大学図書館を訪問して、所蔵資料を利用できます。紹介状の発行や資料の所蔵確認が必要な場合がありますので、事前に附属図書館にご相談ください。

図書館に本の購入リクエストができます（学生希望図書制度）。購入した本は図書館の蔵書となりますが、申込者が優先的に借りることができます。

Web

※ 図書館 HP → 「申し込む」 → 「文献複写申込」

申込書

※ 図書館カウンターに設置

カウンター相談

申込書

※ 図書館内各所及び書籍売店（丸善）に設置

複写料金（約 35 円 / 枚）+ 送料

※ 所蔵館により異なる

往復の送料

紹介状の発行には 3～7 日間を要します。
余裕をもってお申込みください。

【予算】 30,000 円 or 10 冊 / 人（年間）

※ いずれかの上限に達した時点、または学生希望図書予算がなくなった時点で、申込みを打ち切らせていただきます。

到着まで：1 週間～ 10 日

※ お急ぎの場合は、速達の指定をしてください。

到着まで：4 日～ 7 日 借用期間：2 週間程度

※ お急ぎの場合は速達の指定をしてください。

紹介状の発行には 3～7 日間を要します。
余裕をもってお申込みください。

到着まで：2 週間～ 1 か月

【インターネットもチェックしよう】

近年、インターネットを通じて簡単に入手できる学術文献が増えてきています。そのなかには、無料で利用できる文献（オープンアクセス文献）も多くあります。紙ベースである文献複写はとかくお金と時間がかかるもの。お申込みの前に、インターネットから入手できるかどうかをチェックして、効率的な文献収集を心がけましょう。

【国立国会図書館の文献複写サービス】

国立国会図書館は、納本制度に基づき国内の出版物の網羅的な収集に努めている日本最大級の図書館。利用者登録すると、自宅に居ながら、所蔵資料の文献複写申込から郵送による受け取りまでできる便利な遠隔複写サービスを利用できます。

【研究室所在図書の借用】

蔵書検索システム（OPAC）で、配置場所が「研究室」と表示される資料は、図書館にはなく教員研究室にあります。ご希望の場合は、図書館カウンターでお申込みください。借用期間：2 週間。
※使用中などの理由により、借用できない場合もあります。

【兵庫県立図書館所蔵資料の借用】

明石市にある兵庫県立図書館は、一般書や県内郷土資料が充実しており、附属図書館を通じて無料で借りることができます。毎週木曜に託送。月曜日までに申込みれば、週内に受け取り可能。借用期間：3 週間。

【大学図書館訪問の3つのパターン】

- 国立大学図書館を訪問する場合
学生証を必ず携帯してください（入館時に提示する必要があります）。利用したい資料がわかっている場合は、事前に相手先の図書館に利用の可否について照会してください。
- 兵庫県下の大学図書館を訪問する場合
附属図書館から訪問先の図書館に所蔵等の確認をしますので、図書館カウンターでお尋ねください。
- 上記以外の大学図書館を訪問する場合
紹介状が必要になります。図書館カウンターでお申込みください。館長印が必要であるため、紹介状の発行には数日要します。お申込みはお早めに。

【学生推薦図書制度】

個人的に読みたい本をリクエストする学生希望図書制度（上記）に対し、学生の皆さんに図書館の蔵書づくりに参画してもらおうという企画、それが学生推薦図書制度です。推薦といっても方法は簡単。「選書アプリ」を使えば、オンライン書店 Amazon.co.jp で本を探し Facebook シェアするだけで OK。Facebook アカウントを使うので、面倒なユーザ登録も不要。推薦された本は図書館で選定し、結果を月刊メールマガジン『Library News』でお伝えします。ぜひお試しを。

Facebook 選書アプリ

検索

教材文化資料館 NEWS

教材文化資料館は、平成21年に附属図書館に併設された展示施設です。

年2回の企画展は、本学教員、資料館スタッフ、学生サポートスタッフが一体となって作り上げています。

単なる収蔵品の展示とは違う「楽しく学べる展示」を目指しています。

附属図書館を利用される際にはぜひ、教材文化資料館の展示も併せてご覧下さい。

開館5周年記念展「めざせ！板書の達人」特別イベントを開催

平成26年10月1日から平成27年3月1日まで開催された「めざせ！板書の達人」展。

今回は開館5周年を記念し、特別イベントを連続企画。そのひとつ、「第一回 板書の達人」では、学部生、大学院生、卒業生・修了生、兵庫県内の教員を対象にオリジナルの板書画像を募集し、応募者26名の作品すべてを展示。大学院専門職学位課程授業実践開発コースの佐々木豊さんの作品が学長賞を受賞しました。（資料館長賞、審査員賞の受賞者については、資料館HPを参照。）

また、2月8日には板書のエキスパートとして知られる北海道教育大学の田山修三氏を招き、講演会を開催。「板書の達人」のワザや心構えなど実践に役立つ貴重な情報が満載の90分。本学学生だけでなく、近隣の学校現場教員、教育関係者など、会場となった大教室を埋め尽くす181名もの参加者からは、「非常に役に立つ内容でした」、「ぜひ、また開催してほしい」という声が多数寄せられました。



平成27年度前期展「音読のひみつー脳の活性化と教育ー」開催中



音読で脳は活性化する！

脳科学から発見された音読のひみつを音読の歴史と共に紹介します。

また、実際に音読を取り入れた教育実践事例の紹介や、体験コーナーもあります。

多くの方々のご来館をお待ちしております。

会期：平成27年4月1日～8月31日

開館時間：平日 8:30～22:00、土日祝 10:00～17:00 休館日：8月12日～14日、22日

※臨時に休館する場合がございます。附属図書館HPをご確認ください。<http://www.lib.hyogo-u.ac.jp>

【お問い合わせ】

TEL：0795-44-2362 FAX：0795-44-2364 ※平日 9:00～17:00のみ



1年間、LAPメンバーとして、図書館を中心に学びを活性化するための企画・運営に関わりました。平成26年5月からスタートした活動ですが、この1年間はLAPにとっても自分にとってもチャレンジの年になりました。集まった学生は企画などをしたことのないメンバーばかりで、探り探りの状況のなか進んでいきました。ワークショップの企画について話したり、授業中に告知したりと初め

での経験の連続です。それでも、5回のワークショップの開催と「心がほっこりあたたまる本」を集めた本棚企画を達成することができ、また、参加者の方にも「楽しかった!」「また参加したい!」と言ってもらえることができました。1年間頑張れたのは、自分の「やってみたい!」という気持ちに従って、自分たちでつくりあげてきたからだと思います。皆さん、これからもLAPをよろしくお祈りします!

インフォメーション

図書館のトイレが新しくなりました!

創設以来の長きにわたり使用されてきた全階のトイレを全面改修し、機能的で清潔感溢れる快適な空間に生まれ変わりました。

1階はラーニングcommons PAOに合わせて黒を、2階は明るく白を基調とし、各階異なるイメージに。大きな鏡を設置したほか、女性用トイレには四面照明の化粧鏡や1階2階各1ブースに

フィッティングボードも取り付けられています。

1階の多目的トイレは、車いす利用やオストメイトに対応し、おむつ交換台も設置しています。



PAO設置の学生用パソコン及びプリンタをリニューアルしました!

情報処理センターシステムの更改に伴い、ラーニングcommons PAOに設置された学生用パソコン20台とプリンタをリニューアルしました。従来のデスクトップ型をノート型に一新し、空間もすっきり。OSもWindows8.1にアップグレードしました。操作方法等ご不明な方は、PAOサポートデスクにお気軽にご相談ください。

なお、パソコンコーナーが満

席の場合や2階閲覧席やパーソナルラボでパソコン作業を行いたい場合には、ノートPC及びiPadの貸出も行ってあります。こちらも、ぜひご利用ください。



平成26年度事業・イベント一覧

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館ツアー開催 ・LAP(ラーニング・アクティベーション・プロジェクト)始動 ・教材文化資料館平成26年度前期展「自分展」開催(8月29日まで) ・附属図書館広報誌Listen(Vol.8)発行 ・Library News(No.7)発行
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用講習会開催 ・第1回附属図書館運営委員会開催 ・選書アプリ運用におけるプライバシーポリシー正式運用 ・Library News(No.8)発行
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・LAPワークショップ第1弾「学び、まなび、マナビ〜学びてなんだろう〜」開催 ・Library News(No.9)発行
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・LAPワークショップ第2弾「時間」開催 ・第2回附属図書館運営委員会開催 ・Library News(No.10)発行
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・気象警報発令時の図書館の開館ルールの策定 ・館内トイレの改修工事実施(10月31日まで) ・Library News(No.11)発行
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・附属図書館の理念策定に係るアンケート実施(10月31日まで) ・パネルシアター講座開催 ・秋のブックギャラリー「災害と、向き合う。」開催 ・第22回近畿地区四教育大学附属図書館協議会開催 ・Library News(No.12)発行
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文化資料館開館5周年記念展「めざせ!板書の達人」(2月27日まで) ・ランチタイムコンサート開催 ・ボクブックシェルフ「選読のスズメ」開始(2月27日まで) ・LAPワークショップ第3弾「家族」開催 ・Library News(No.13)発行
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・第16回図書館総合展ポスターセッションに出展(特別賞受賞) ・兵教ライブラリーフェスタ開催 ・LAPワークショップ第4弾「話す・聴く」開催 ・第3回附属図書館運営委員会開催 ・Library News(No.14)発行
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ボクブック・シェルフ「心がほっこりあたたまる本」「クリスマス」開始(12月26日まで) ・Library News(No.15)発行
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・LAPワークショップ第5弾「恋愛」開催 ・「板書の達人」関連図書展示コーナー設置 ・第4回附属図書館運営委員会開催(メール会議) ・Library News(No.16)発行
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・板書の達人・田山修三氏講演会開催 ・Library News(No.17)発行
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ラーニングcommons PAO設置の学生用パソコン・プリンタの更新 ・PAOの課題を探るワークショップ開催 ・第5回附属図書館運営委員会開催 ・Library News(No.18)発行



編集後記

草野図書館長から拝借したフランソワ・トリュフォー監督の映画「華氏451」を観ました。読書や蔵書が禁じられた社会で、焚書を生業とする男の心の葛藤を描いた物語。折しも書架狭隘化に伴い、積極的な蔵書リストラの当事者となっている自分の姿と重ね合わせ、他人事とは思えない複雑な心境になりました。館長、ありがとうございます。(N)

Listen VOL.9 平成27年4月発行

編集・発行 / 兵庫教育大学附属図書館
673-1494兵庫県加東市下久米942-1